

ジェンダーレンズ・ チェックリスト 大学版について

男女共同参画推進連携会議 業界における女性の
活躍促進チーム

発表者：国保祥子（静岡県立大学）

開発の経緯

自大学における男女共同参画の状況に自覚的になってもらうためのツールとして、内閣府男女共同参画推進連携会議 業界における女性の活躍促進チームで開発。

企業向けジェンダーレンズ・チェックリスト（G20 EMPOWER JAPAN, 2021年）を参考に、大学教員に適した項目を選定。研究・教育・大学運営の3つの観点と、大学教員のキャリアパスを考慮に入れて女性の活躍度を測るようになっていきます

開発段階で以下の組織へのヒアリングを実施しています。

- 大阪大学 ダイバーシティ&インクルージョンセンター
- お茶の水女子大学 佐々木泰子学長
- 九州大学 男女共同参画推進室
- 東京大学 林香里理事・副学長
- 東京大学 男女共同参画室
- 東京工業大学 ダイバーシティ推進室
- 東北大学 大隅典子副学長
- 東北大学 男女共同参画推進センター(TUMUG)
- 北海道大学 ダイバーシティ・インクルージョン推進本部
- 宮崎大学 清花アテナ男女共同参画推進室

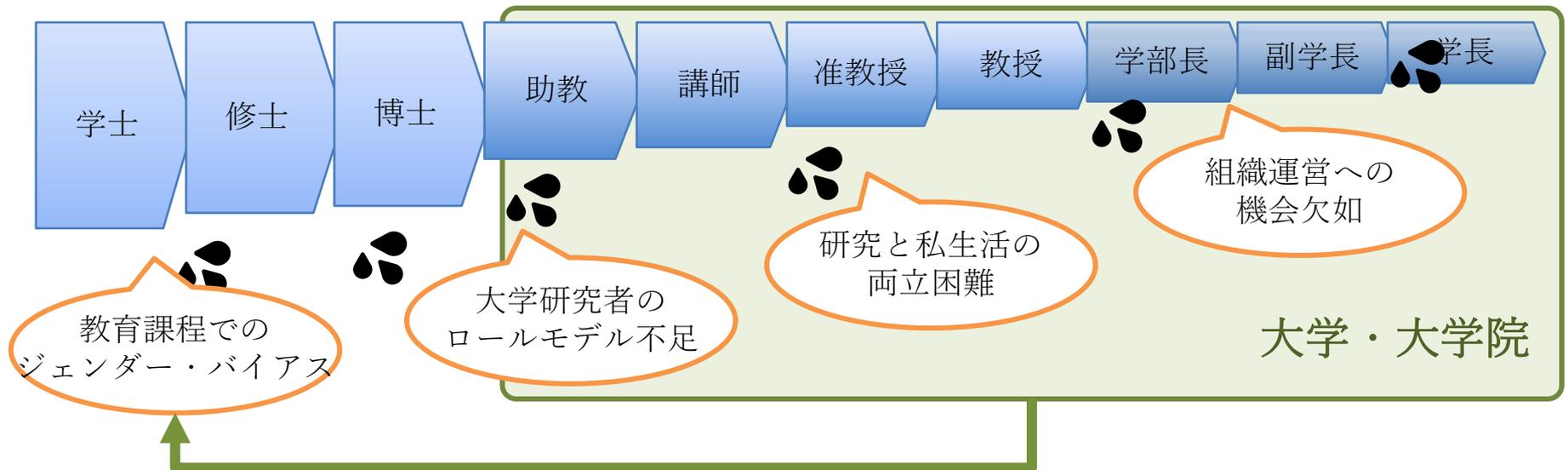
女性研究者のパイプライン漏洩 (LEAKY PIPELINE)

どこのパイプラインが漏れているのか？

- 女性研究者が少ない (修士・博士の女性比率)
- 女性教員が少ない (助教・講師・准教授・教授の女性比率)
- 女性管理職が少ない (学長など大学執行部の女性比率)

今回は大学における女性研究者の漏洩にフォーカス

- 教育課程で女性を見かけない = ジェンダー・バイアスの再生産
- 女性管理職が増えないことで女性の環境が改善されにくい



ジェンダーレンズ・チェックリストの活用方法

- I. 課題の認識とモニタリングが目的であることから、数値の公表義務はありませんが、数値を時系列で定期的に確認し、課題共有ツールとしていただければ幸いです
- II. リストの項目に対して、①数値を把握していない、②数値をモニタリング中、③改善成果が出ている（目標数値を達成している）の3段階で評価します
- III. 実数が少なく算出が難しい項目は、数年分をまとめて算出する、近い分野でまとめて算出するなど、実態に即した形に修正を加えてお使いください
- IV. ジェンダー統計の観点から本稿では二分法的に性別を扱っておりますが、様々な事例への配慮も必要であることから、実施においては各大学の個別事情を鑑みて性別の定義を行っていただきますようお願い致します

ジェンダーレンズ・チェックリスト（大学版）

	項目	目的・算出方法	評価
1	教員数における女性比率	教育研究に関わる全教員を、学部ごと・職位ごと・任期有無で女性比率を算出。それらを比較することでパイプラインの漏洩部分を可視化する。	
2	教員公募における応募者・採用者・内部昇進者の女性比率	応募者・採用者・内部昇進者（公募によらない人事）に占める女性の比率を算出してそれぞれ比較する。学部（分野）ごとに、実数が少なければ複数年で算出。採用力の問題なのか、選考に課題があるのかを可視化する。	
3	外部資金受入代表教員数における女性比率	科研費等の研究系資金および産学連携系資金の受入代表者に占める女性の比率を算出。学部または分野ごとに集計する。女性研究者の研究活動状況を可視化する。	
4	外部資金受入分担教員数における女性比率	科研費等の研究系資金および産学連携系資金の受入分担者に占める女性の比率を算出。学部または分野ごとに集計する。女性研究者の研究活動状況を可視化する。時系列で見ることで研究者の育成状況の参考になる。	
5	平均年収の男女比較	学部または分野ごとに集計。年俸制と俸給制が混在する場合は制度ごとに算出。同一等級内での男女差や、男女間等級格差等を可視化する。	
6	平均担当授業（講義・実習・演習）数の男女比較	学部または分野ごとに集計。授業のコマ数や種類などの分類は、各学部の実態に即した形で算出。教育業務の負荷の偏在を可視化する。	
7	女性や若手研究者に対する支援体制の件数	ダイバーシティ推進センターといった支援組織や支援プログラムの整備、雇用環境の整備状況チェックリスト、若手の声を吸い上げるしくみ等の整備状況を可視化する。	
8	育児休業、介護休業取得教員数の実数の男女比較	育児および介護休業の取得者の実数を比較する。学部または分野ごとに集計。ワークライフバランスの実態やニーズの変化を把握するための指標。	
9	学部教務等の要職とされる委員長職における男女比較	教務や入試など、学部および全学において重責と位置づけられる、または選挙で選出される役職における女性の比率を算出。	
* 10	部局長における男女比較	学部長、研究科長、研究所長、図書館長、病院長、センター長等、大学運営における要職の女性の実数を算出。女性共同参画状況を可視化する	
* 11	大学執行部における男女比較	副学長、副理事長など、トップ以外の大学執行部に占める女性の実数を時系列で見る。女性の参画状況を可視化する。	
* 12	大学トップにおける男女比較	総長、学長、理事長など、大学トップに占める女性の実数を時系列で見る。女性の参画状況を可視化する。	

* は結果指標

開発段階で明らかになった大学教員キャリアの課題

採用や昇進に関する要因（リスト1, 2, 5）

- ダイバーシティ推進は全学、人事採用評価は学部のため、連携施策が必須
- 対策：科学技術振興調整費や科学技術人材育成費など国の事業を活用した女性限定採用（九州大学・東北大学・東京大学等）、女性人材育成プログラム（九州大学SENTAN-Q等）、中期採用計画に関する意見交換会（東京大学等）、全学審査会による採用チェック（九州大学・宮崎大学等）、予算配分ルールの工夫、無意識バイアスチェック（東京大学「無意識のバイアス」確認シート, 東北大学等）等

教員評価やキャリアパスに関する要因（リスト3, 4, 6, 9）

- 研究成果偏重により、研究時間や資源の確保段階での生存競争が激しい
- 学内業務の多くが研究者としての評価に繋がらず、運営業務が忌避されやすい。大学の意思決定層へのキャリアパスである学内リーダー業務も忌避される
- 対策：業績以外含む独自の教員評価制度、委員会業務の効率化、メンター制度等

労働環境に関する要因（リスト7, 8）

- キャリア形成のための異動が全国に渡り、配偶者との別居など家庭生活への影響が大きい（別居経験のある女性研究者は6割、男性は3割;篠原2020）
- 故に家庭内ジェンダー規範や配偶者のキャリアプランに強く影響を受ける
- 対策：支援プログラム整備、雇用環境評価チェックリスト活用（お茶大インデックス）、配偶者帯同雇用制度（九州大学等）、クロスアポイントを活用した帯同支援（東北大学）、授業や会議のオンライン活用等

今後に向けて

チェックリストは現状を分析し、課題を可視化するための最初の一步です。課題意識はあるが何をしたらいいか分からないという方は、ぜひ活用してください。

先進事例も数々の試行錯誤をしながら、時間をかけて現在に至っています。担当教職員は学内の逆風にも立ち向かわなくてはなりませんので、支え合うネットワークも重要です。チェックリストを活用した課題や解決策の共有や、試行錯誤の報告の場（研究会）も有益かと思います。

将来的にジェンダー項目が大学評価や研究費配分などに反映されれば、大学の変革は加速すると思われれます

最後になりますが、ヒアリングにご協力いただきました皆様に感謝申し上げます。

付録：ジェンダーレンズ・チェックリスト（企業版）

ジェンダーレンズの12項目について4段階で評価

		課題を認識している	データの整備・分析中	KPIを設定し進捗確認中	改善の成果が出ている
1	採用人員の男女比				
2	総従業員数と各部署の男女比				
3	能力開発プログラム参加者数の男女比				
4	残業時間数、有給取得率の男女差				
5	育児休業、介護休暇取得者率の男女差				
6	賃金・賞与額の男女差				
7	勤続年数の男女差				
8	評価上位者における男女比				
9	昇進、昇格者における男女比				
10	管理職（課長、部長）の男女比				
11	執行役・執行役員員の男女比				
12	取締役の男女比				

付録：女性研究者のパイプライン漏洩状況

	理学	工学	農学	保健	人文科学	社会科学
博士課程	20.7	19.5	36.7	35.5	52.8	37.5
助教	16.4	11.7	25.3	34.5	44.8	39.0
講師	16.0	11.9	23.3	31.9	43.6	33.0
准教授	10.4	7.5	14.1	30.2	39.1	26.3
教授	6.2	3.7	6.2	22.9	26.6	15.6

出典：

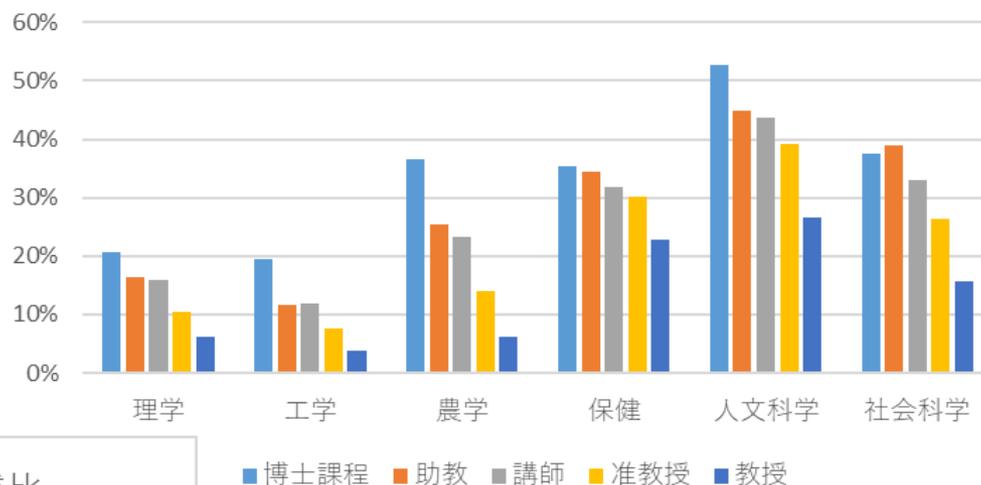
博士課程*1 令和4年度学校基本調査

助教～教授*2 令和元年度学校教員統計調査

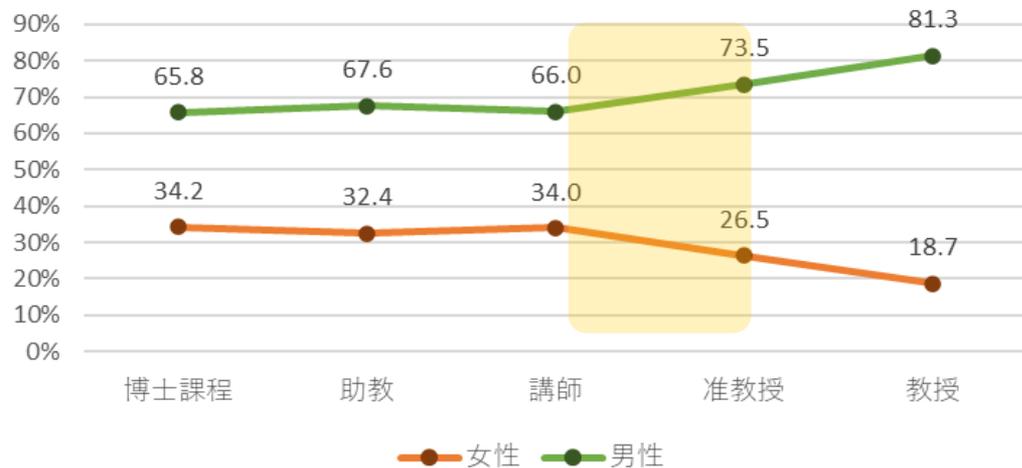
*1 博士課程在籍者に占める女性比率

*2 各職階の女性教員（本務）比率。なお教授には学長、副学長も含む。

アカデミック・キャリア段階ごとの女性比率（専門分野別）



アカデミック・キャリア段階ごとの男女構成比（全専攻）



	女性	男性
博士課程	34.2	65.8
助教	32.4	67.6
講師	34.0	66.0
准教授	26.5	73.5
教授	18.7	81.3

出典：

博士課程*1 令和4年度学校基本調査

助教～教授*2 令和4年度学校基本調査

（各統計に基づいて、男女共同参画推進連携会議の事務局が作成）